書き込み年表 advanced ⑥、 中国史 3(後漢滅亡～隋の統一まで)

（皇帝の年代は在位をあらわす）

160

後漢

党錮の禁(166, 169)　宦官政権 → 反宦官派官僚（追放）

豪族出身者多い(郷挙里選により)
地方豪族の離反、農民を圧迫

黄巾の乱(184) ← 農民流民化 ← 農民、重税・豪族の圧迫に反発

各地の豪族の群雄割拠　→ 農地荒廃

曹操(魏)

曹操の屯田制　官有地(国有地)に耕作者を募り、耕作させる制度

目的 ①兵士の確保(軍屯)　②治安維持(民屯,流民の抑制)
③財源の確保(民屯)

軍屯 辺境の兵士に戦闘の合間に耕作させる 兵士の食糧自給

民屯 国有地を流民や一般農民に耕させ、そこから税を取る

200

赤壁の戦い(208) 曹操　劉備(蜀)　孫権(呉)　魏の一強から天下三分へ

後漢滅亡(220)　(三国時代)

魏　曹丕(文帝)　蜀　劉備　呉　孫権

文帝の九品中正　中央より中正官任命　地方へ
地方の評判に基づき、人材を九品(9等級)に分ける

魏、蜀を併合(263)　地方豪族中正官と結ぶ → 豪族の子弟に有利
門閥貴族の形成

魏の将軍司馬炎、晋を建国(265)

晋(西晋, 265～316)　司馬炎(武帝)　都：洛陽

呉を滅ぼし、
晋、中国統一(280)

占田・課田法(280)　占田法　土地所有に上限を設ける　大土地所有の制限
課田法　農民に土地(国有地)を割り当て耕させる → 北魏(北朝)の均田制へ

武帝、一族を各地の王とし、権力を与える → 中央の権力弱まる

300

八王の乱(290～306)　晋の後継者争い ← 周辺の遊牧民、兵として参加 → 遊牧民族、国内に進出

永嘉の乱(311～316)　南匈奴、洛陽を攻略し、皇帝を捕虜に　西晋滅亡(南下し、東晋に)

仏図澄、洛陽に至る(310)　亀茲(クチャ)出身　高句麗、楽浪郡を滅ぼす(313)

五胡十六国(304～439)

五胡　匈奴、羯、鮮卑、氐、羌

羯：匈奴の別派　氐、羌：チベット系

東晋(327～420)　司馬睿　都：建康

前秦(氐に由来)一時華北統一 → 淝水の戦い(383)　前秦、東晋に敗北。以後、北朝・南朝分立

(北朝)　高句麗、広開土王即位(391)　法顕、インドへ(399, 412帰国)　(南朝)

鳩摩羅什、長安へ来朝(401)　亀茲(クチャ)出身、仏典の漢訳

400

北魏(386～534, 鮮卑系)　拓跋珪

3代太武帝　華北統一(439)　漢化政策

華北より戦乱を避け
貴族・農民(流民)
たちが江南に移動

宋(420～479)
劉裕

道教国教化、仏教弾圧(法難)　当時の漢人の信仰は道教が主

6代孝文帝　漢化政策を進める

均田制(485)　豪族の大土地所有を抑える目的

農民に土地を支給、土地から税を徴収
妻・奴婢(ぬひ)・耕牛にも土地支給

→ 多く所有する豪族がより土地を得られる → 隋、唐に受け継がれ
修正される

大土地所有を抑制する効果は限定的

斉(479～502)
蕭道成

江南の生産性向上
貴族文化(六朝文化)栄える

三長制(486)　治安維持と財政確保の目的

5家を隣、5隣を里、5里を党とまとめ
それぞれに隣長、里長、党長(三長)を置く

洛陽遷都(494)　漢化政策の一つ、後漢以来の都に遷都

梁(502～557)
蕭衍

500

六鎮(北方を防備する軍人)の反乱 ← 漢化政策への反動

西魏(535～556)　宇文泰

東魏(534～550)
高歓

府兵制

土地を支給した農民から徴兵
隋、唐まで引き継がれる

北斉(550～577)
高洋

北周(556～581)　宇文覚

突厥、柔然を滅ぼす(555)

陳(557～589)
陳霸先

北周の外戚楊堅、実権を握る

隋(581～618)

楊堅(文帝, 581～604)

突厥、隋の攻撃を受け、東西に分裂(583)

陳を滅ぼし、中国統一(589)

600